

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

(令和6年度)

膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 膵臓がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長 岡 志郎

I. はじめに

膵臓がんは、早期での自覚症状が無く早期発見が難しい。5年生存率が80%とされる早期がんが含まれるステージ0とIを合わせた発見割合は11.0%という低い水準が続いている。部位別死亡者数は男女とも増加傾向にある。

このため、膵臓がん早期発見・治療のための医療提供体制を構築することが急務であり、広島県がん対策推進計画（第3次）に基づき、膵臓がんの早期発見・治療のフローを本ワーキンググループにおいて検討してきた。

本ワーキングは令和2年8月19日から開催され、膵臓がんの早期発見・治療のためのフロー確定、ポスター等を活用した周知方法等をWGで議論の上、整理し、令和4年度に、Hi-PEACEプロジェクト（以下「プロジェクト」とする。）を開始した。令和6年度は、プロジェクトの症例数を確認し、課題の共有や今後の調査についての質疑などを行った。

II. 開催状況

第1回（開催日：令和7年10月4日（金））報告、協議事項

①プロジェクトの実績について

プロジェクト開始（令和4年11月）から令和6年4月までにプロジェクト中核施設から提出された3,893件の症例について集積報告を行った。582例がすい臓がんと診断されており、早期診断例とい

える症例は35例（stage 0: 12例（2.1%）、stage I: 29例（4.7%））であった。切除可能あるいは切除可能境界と判断されるStage IIまでの症例は40%弱となっていた。

実績についての意見交換を実施したところ、認知度や紹介数に地域差があるといった意見があった。

②中国新聞への掲載について

プロジェクトについて中国新聞（令和6年9月3日付け）に掲載されたことの情報提供を行った。

③新規の膵がん診断血清マーカー APOA2-itq について

東レ株式会社より、膵癌の診断補助を目的にアポリポ蛋白A2 アイソフォーム（APOA2）を測定する体外診断用医薬品について、製品の性能等について情報提供があった。

III. 令和6年度の成果

プロジェクト開始後から令和6年4月までの実績報告と現状の診療状況、取り組み状況等について情報共有を行った。また、新規の膵癌診断血清マーカー APOA2-itq について情報提供を行った。

IV. 今後に向けて

引き続き、紹介率や早期癌診断率等のデータを収集し、解析を行い、プロジェクトの成果を検証する。また、紹介数の少ない地区医師会に説明を行うなど周知を推進する。

広島県地域保健対策協議会 腫瘍がん早期発見推進ワーキンググループ

WG長 岡 志郎 広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
顧問 古川 善也 広島赤十字・原爆病院
委員 池本 珠莉 広島大学病院消化器内科
石井 康隆 広島大学病院消化器内科
植木 亨 福山市民病院
岡崎 彰仁 東広島医療センター
小川 恒由 福山市民病院
北渕 明美 広島市健康福祉局保健部健康推進課
栗原 啓介 市立三次中央病院
佐々木民人 県立広島病院
芹川 正浩 県立広島病院
辻 恵二 広島県医師会
花田 敬士 JA尾道総合病院
平尾 謙 広島市立広島市民病院
藤本 佳史 JA広島総合病院
南 智之 広島赤十字・原爆病院
山口 厚 呉医療センター・中国がんセンター
山根 一人 広島県健康福祉局健康づくり推進課
行武 正伸 広島市立北部医療センター安佐市民病院